

・オーシャンゼリゼ

パリのシャンゼリゼ通りをモチーフにしたフレンチポップスの代表曲ですが、オリジナルの楽曲は1968年にイギリスのサイケデリックバンド・ジェイソンクレストがリリースした「ウォータールー・ロード」と言う曲です。ロンドンのウォータールー通りを舞台とし、ウォータールー通りに行けば探しているのがきつと見つかると言う詞がつけられていましたがヒットには至らず、当時フランス在住で人気歌手だったアメリカ人のジョー・ダッサンがアレンジを加え1969年にフランスで自分の楽曲として発表しました。しかし、フランス語訳の際にロンドンの『ウォータールー通り』はパリの『シャンゼリゼ通り』に差し替えられました。これはウォータールー(ベルギーの地名ワートルローの英語読み)が1815年にナポレオン1世がイギリス連合軍に大敗を喫したワートルローの戦いの戦場名と同名で、フランスではこのままのタイトルでは発売できなかったためと言われています。



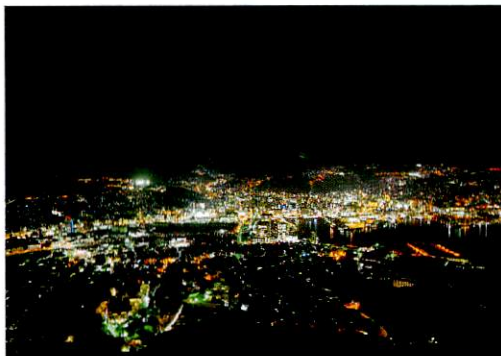
日本では「歌うフランス人形」と言われたダニエル・ビダルが1971年にリリースしたレコードが大ヒット。金髪にブルー・グリーンの子供を覚えているらしい方も多いためと思えます。後に南沙織や越路吹雪もこの曲をカバーしました。明るく、ポップな雰囲気の中で小中学校の音楽の時間に取り上げられたり、車や清涼飲料水、ビール等のCMに度々使われています。

・長崎夜曲

「長崎夜曲」は2014年8月6日にリリースされたアルバム「エトピリカ」に収録された1曲で、作曲は現在も第一線で活躍しているバイオリニストの葉加瀬太郎です。

「長崎夜曲」の誕生に関しては次のようなエピソードがあります。長崎商工会議所青年部は地域経済発展を目的に2012年「コンベンション」と「夜景」をテーマに推進委員会を設立。長崎はナポリ、香港とともに「世界新三大夜景」の一つであり、もっと長崎の夜景をアピールし経済の活性化に役立てようと考えました。そして長崎の夜景

と音楽の組み合わせに最適な表現者として楽曲制作を葉加瀬太郎に依頼。長崎の夜景を見て葉加瀬が感じたもので作曲を依頼しようと考えていた委員長の意に反し、葉加瀬からは「一緒に作りましょう。曲のイメージを教えてください」という言葉が返ってきたのでした。完成した曲は「長崎夜曲」として2013年12月長崎市民700人がつめかけるなかJR長崎駅かもめ広場で完成セレモニーが行われました。出席した葉加瀬は長崎の夜景について「町の民家の光が集まった温かさを感じる輝き」と評し、この曲のイメージについて「温かさや懐かしさを表現した」と語ったということです。



・南蛮渡来

作曲者の湯浅隆氏は1990年からマンドリン奏者の吉田剛士氏とアコースティックデュオ「マリオネット」を結成。中学生の頃からギターをはじめ、クラシックギター、フォーク、ロック、ブルース、ラテンと幅広く演奏活動を続けるうち、ポルトガルギターと運命的な出会いをしました。

1543年の種子島への鉄砲伝来から今日に至るまでポルトガルとは多くの交流が続けられてきています。この曲「南蛮渡来」もポルトガルとの架け橋の一端でもあると思われます。

本日の演奏は、マンドリン合奏用に編曲されたものです。



●ポルトガルギター
12弦のポルトガルの弦楽器。
首都リスボンの下町で生まれた民族歌謡
のファド (Fado) の伴奏に使われます。

・RuRu

戦後すぐに大阪ミナミに开店したシャンソン・カフェ「ルル」。法善寺横丁界隈にある小さな喫茶店のマスターの快気祝いに湯浅氏と吉田氏が作曲。マンドリン奏者の吉田剛士氏は中学生の頃からギターとマンドリンを始め、マンドリニストの川口雅行に師事。ドイツの国立ヴッパータル音楽大学に留学。首席で卒業し帰国。1990年に湯浅隆氏と「マリオネット」を結成し演奏活動に入りました。

・ガブリエルのオーボエ

1986年公開の映画「ミッション」の挿入曲として有名な楽曲。

1750年当時のミサ曲とそこに登場する南米グアラニー族の民族性を加味した名曲で、映画音楽の巨匠モリコーネが自身の最高傑作として挙げています。当時スペインの植民地であった南米の密林の中で、布教活動を行っていた宣教師ガブリエルはオーボエを演奏し、言葉の通じない先住民グアラニー族と心を通わせました。

後にサラ・ブライトマンがモリコーネに何度も頼み込んで歌詞をつけて歌ったのが「Nella Fantasia (ネッラ・ファンタジア)」です。

想像の中では、正しい世界が見えるわ
皆が平和で、正直に暮らす
私はいつも、自由な魂を持つ夢を見るの
曇ったところなど風で飛ばされてしまうほど
魂の底まで慈愛に満ちた・・・

世界中のあちこちで紛争が繰り返されている今、この歌詞が心に響きます。

「ガブリエルのオーボエ」は、フルート、ヴァイオリンなど様々な楽器で演奏されていますが本日はマンドラの音色でお届けします。



・中央フリーウェイ

「中央フリーウェイ 調布基地を追い越し、、、」と歌い始められるこの曲は ユーミン（松任谷由実）の4番目のアルバム「14番目の月」（1976年発売）に収録された曲です。曲が作られたとき中央道の高井戸～調布間はまだ開通していなかったので歌い始めが新宿や高井戸ではなく調布になっているようです。

「町の灯がやがて瞬きだす 2人して流星になったみたい、、、」「この道はまるで滑走路 夜空に続く、、、」ユーミンが歌っているオリジナルは二人が夜空に飛んで行くような浮遊感を持った都会的でおしゃれにアレンジされています。

この曲がハイ・ファイ・セット、今井美樹によってカバーされたものをお聞きの方も多いと思いますが、最近ではユーミンのデビュー50周年を記念し、人気ユニットYOASOBIによってカバーされたものもあります。彼らのアレンジはテクノ的なリズムで、新しい歌詞とメロディも加えられ新鮮なものになっています。YouTubeにアップされていますので一度聞いてみて下さい。

今日はオリジナルに近いアレンジでお届けします。どうぞお楽しみください。

・ヴォラーレ

今回はジプシー・キングス（Gipsy Kings）が情熱的なラテンカバー（1989年にリリース）でアレンジしている曲を私達の編成に再構成しました。

「Volare」とは、イタリア語で「飛ぶ」を意味し、歌詞では、夢の中で青空高く飛んでいく体験をした主人公の高揚感・爽快感が歌いこまれています。

サビの歌詞と意味は次の通りです。

飛んでる（ボラーレ オーオ） 歌ってる（カンターレ オオオオ）
青く塗られた青の中で 幸せな気分
（ネル ブル ディピント ディ ブル フェリセ ディ スタレ ラス）

1958年の第8回サンレモ音楽祭で入賞し、翌年の1959年は第1回グラミー賞の最優秀レコード賞および最優秀楽曲賞に輝いているこの名曲をお聴きください。



イタリア・ソレント半島のアマルフィ海岸（世界遺産）

・アンダルシアの唄

作曲者のアメディオ・アマディは1866年にアドリア海に面したイタリアのローレトと言う都市に生まれました。有名な音楽家の三代目として幼い頃からその才能を開花させ、4歳の時にはすでに最初の曲を作ったと言われています。彼の作品は管弦楽、吹奏楽、合唱曲、オペレッタ等多岐に渡り、特にマンドリン合奏曲の数々は時のマルゲリータ（ピッツァの名前と同じですね）皇太后から絶賛されました。大曲のみならず本日演奏いたします小さな作品にも自然で明朗な旋律がちりばめられており、今尚マンドリニスト達に愛され、好んで演奏され続けています。

太陽の光が降り注ぐスペイン・アンダルシア地方は青い空と白い街と言うスペインらしさを最も感じられる地域で、ヨーロッパでありながら中世イスラム建築を代表する世界遺産アルハンブラ宮殿を有するグラナダ、フラメンコの本場州都セヴィリア、太陽の海岸コスタ・デル・ソルの玄関口マラガ等、今も昔も人々を惹きつける魅力的な都市が点在しています。アマディはこのアンダルシアの唄他にもハレオ・デ・ヘレスと言うアンダルシア民舞曲も作曲しており、彼にとって心惹かれる土地であったようです。

「アンダルシアの唄」はスペインの舞曲であるポレロのリズムを基本としていますが、アマディの洗練された手法により、マンドリン合奏の表現を巧みに生かした軽快な作品となっています。

・日本抒情歌集

・宵待草 待てど暮らせど来ぬ人を 宵待草のやるせなさ今宵は月も出ぬさうな
作詞は竹久夢二。恋多き夢二が実ることなく終わったひと夏の恋を詠んだものです。岡山の後樂園には「宵待草」の歌碑があります。

・花嫁人形 金襴緞子の帯締めながら 花嫁御寮はなぜ泣くのだろう
抒情画家、露谷虹児（ふきやこうじ）が作詞した童謡。虹児のふるさと新発田市では「花嫁人形」を後世に歌い継ぐために、全国『花嫁人形』合唱コンクールが開催されています。今年は歌詞発表100周年にあたり、記念大会が開催されました。

・やしの実 名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実一つ
故郷の岸を離れて汝はそも波に幾月
島崎藤村が明治時代に執筆した詩。明治31年の夏、伊良湖岬に滞在していた柳田國男が、恋路ヶ浜に流れ着いた椰子の実の話をもとに藤村に語り、藤村がその話を元に創作したものです。

・知床旅情 今宵こそ君を抱きしめんと 岩陰によればピリカは笑う
民謡「さらばラウスよ」に森繁久彌が新たに歌詞を添詩したものです。後に加藤登紀子によってリリースされ、日本レコード大賞を受賞しました。ピリカはアイヌ語で「美しい」の意味で、北海道にはピリカ湖、ピリカ遺跡等ピリカが用いられた名称が多くあります。

・月の沙漠 月の沙漠を遙々と旅の駱駝が行きました
金の鞍には王子様、銀の鞍にはお姫様
日本画家で詩人の加藤まさのの作品。佐々木すぐるによって曲がつけられ、童謡として有名になりました。「月の沙漠」のモチーフになった砂浜については諸説ありますが、千葉県御宿海岸には2頭の駱駝に乗った王子と姫の像が建てられています。